

## 平成30年度 南丹市立美山小学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校教育目標	学校の現状分析		学校経営方針(中期経営目標)	
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」</p> <p>【めざす児童像】 み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子</p> <p>* 児童が生き生きと活動し成長することを 保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校</p>	<p>○児童は落ち着いた穏やかな学校生活の中で、まじめに学習や諸活動に取り組んでいる。</p> <p>○集団の中で自分の思いを伝える力が高まりつつあるものの、声の大きさや表現力に課題が見られる児童もあり、傾聴の姿勢とともに高めていく必要がある。</p> <p>○宿題等の与えられた課題に真面目に取り組んでいるが、自主的な学習への取組には個人差が見られ、家庭での学習習慣の確立やゲーム機器等の使用ルールについて、家庭と連携した指導が必要である。</p> <p>○運動好きな児童とそうでない児童の二極化が見られ、運動機会の拡充による体力向上が必要である。</p>		<p>○確かな学力・豊かな人間性・健やかな体を持つ児童の育成</p> <p>○地域と共にある学校として、地域と協働した取組による相互の活性化</p> <p>(1)主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを進め、学ぶ意欲の喚起と基礎学力定着を図り、自らの考えを表現する力を育成する。</p> <p>(2)地域と共にある学校として、地域の教育資源の積極的活用と地域活性化に向けた働きかけについて、全教職員で取り組む。</p> <p>(3)人権尊重の精神が底流にある学校で、自分自身・仲間を大切に する児童を育成する。</p> <p>(4)チーム学校としての機能の充実と、ICT活用や校務の効率化により、教職員がはつらつと子どもに関われる、魅力ある学校にする。</p>	
学校経営の重点(短期経営目標)	成果	評価	課題	改善策等
<p>地域とともにある学校 コミュニティ・スクールとして地域と協働で教育活動を展開し、本校教育に対して、保護者・学校運営協議会委員の80%以上の方に肯定的評価を得る。</p>	<p>○児童の地域から見守られている安心感と地域への関心が高まった。</p> <p>○学んだことを伝えようという表現意欲・表現力が高まった。</p>	A	<p>これまでに蓄積した地域の数多くの教育資源を精選し、各学年・中学校で系統的に学習する教育課程を地域と協働で編成する。</p>	<p>○これまでの実践の総括と児童の実態分析を教育課程編成に反映する。</p> <p>○学校運営協議会・中学校との連携をさらに進める。</p>
<p>授業改善 児童の知的好奇心を刺激し、深い学びにつながる授業展開ができるよう努め、授業がわかりやすいと答える児童が80%以上にする。</p>	<p>○授業研究会等多くの公開及び参観機会を設け授業改善に努めた。</p> <p>○授業がわかりやすいと答えた児童が90%を超えた。</p>	B	<p>主体的・対話的で深い学びについて研究を進めているが、さらに深く研究を進め、児童の力につなげていきたい。</p>	<p>○授業参観の視点など、ポイントを絞った授業研究会を実施する。</p> <p>○諸研修に積極的参加し、学びを共有する。</p>
<p>人権教育・生徒指導 一人一人がかけがえのない存在であること伝え続け、自分の良さを知る児童80%以上、いじめは絶対許さない児童95%以上にする。</p>	<p>○児童の自己肯定感の高まりが見られ、友だちに対しても優しい気持ちで接していることがわかる。</p> <p>○「自分の良さを知っている」と回答した児童が80%を超えた。</p>	B	<p>○いじめを否定し、友だちに対してやさしく接することを意識できている。</p> <p>○周りを気にせず正しいことは正しいと言える力や規範意識を高める。</p>	<p>同学年・異学年が触れあう特別活動や日常の諸活動を通して、その良さに気付く、伝える場面を意図的に設定する。</p>
<p>体育・スポーツ・健康 運動する楽しさを実感し、健康な生活を送るために運動が役だつことを理解して、運動が好きと答える児童を80%以上にする。</p>	<p>○休み時間に多くの児童が積極的に外遊びができています。</p> <p>○任意参加の陸上大会に多くの児童が参加し、好成績を収める児童もあった。</p>	B	<p>○運動嗜好に2極化が見られ、休み時間にほとんど外に出ない児童がいる。</p> <p>○長期休業中の運動が不足する児童が見られる。</p>	<p>体育科授業における運動量の確保と児童会委員会の取組として、外遊びの機会を設定する。</p>
<p>働き方改革 児童に生き生きと関わるため業務改善を図り、業務の効率化が図れたことを実感する教職員が80%以上にする。</p>	<p>退勤時間が相対的に早まっており、職員の業務改善に対する意識の高まりが見られる。</p>	B	<p>個人の努力と合わせて職場としての効率化をさらに進め、授業改善や研修にも取り組んでいく。</p>	<p>○会議資料の提示方法や時期などを見直し、会議に要する時間を縮減する。</p> <p>○校務支援システムを活用して業務改善が図れるよう研修する。</p>